

様式1 令和4年度 清瀬市立 清瀬第五中学校 学校評価計画

学校の教育目標	・和敬 明るく思いやりのある人 ・思索 深く静かに考える人 ・剛健 たくましく、がまん強い人	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動
目指す学校像（ビジョン）	○生徒にとって、楽しく、行きがい（生きがい）のある学校 ○保護者にとって、親しみがあがり、地域に誇りに思われる学校 ○教職員にとって、自己研鑽に励み、協力して進める学校	○育成を目指す資質・能力 ・主として学びに向かう力、人間性等の涵養 ・主として思考力、判断力、表現力等の育成 ・主として心身の健康、豊かなスポーツライフの育成 ○特色ある教育活動 ・体験的な学習に力を入れ、「社会や世界に向き合い関わり合い自分の人生を切り開いていく力」を育成する ・食育やキャリア教育の視点から農業体験学習を中心とした学習を実施し、自ら学び考える力や課題解決力を高める ・SDGsをテーマとして、修学旅行や校外学習などの体験学習を中心とした教育活動を実施し、主体的に判断し課題を発見・解決する力を育成する ・人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を身に付けさせる
【目指す学校像】	○和敬・・・明るく思いやりのある人ー自他の生命を尊重する心の育成 ○思索・・・深く静かに考える人ー思考力、判断力、表現力の育成 ○剛健・・・たくましく、がまん強い人ー心身の健康、豊かなスポーツライフの育成	
【目指す児童・生徒像】	○常に生徒のことを第一に考える教師 ○日々研修に努め、チャレンジ精神をもって授業の改善、充実に取り組む教師 ○体罰や不適切な指導を許さぬ教師	
【目指す教師像】		

前年度までの学校経営上の成果と課題
【成果】 ・毎日の学校の様子や、給食の内容などの情報を学校ホームページによって発信したり、行事等を動画配信することで、保護者により今の学校の様子を伝えることができた。 ・体験的な学習は、「生きて働く知識・技能」の涵養に向けた取組として効果をあげている。
【課題】 ・生徒の興味・関心を引き出したり基礎基本の定着等を図ったりするために、ICT機器の活用をはじめとした授業改善が必要である。 ・特別な支援が必要な生徒が、増えている傾向にあり、サポートルームとの連携や特別支援教育の充実が一層大切になる。

柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標（評価基準）	成果指標（評価基準）
確かな学力の向上	基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けさせる。	授業改善を図り、生徒一人一人が分かる授業を実践すること。	ICT機器を活用して、理解の定着を図れるようにする。	4 教員の自己評価で、肯定的評価90%以上 3 教員の自己評価で、肯定的評価70%以上 2 教員の自己評価で、肯定的評価50%以上 1 教員の自己評価で、肯定的評価50%未満	4 生徒の自己評価で、満足度90%以上 3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 生徒の自己評価で、満足度70%未満
			授業のねらいを明確にし、流れ、振り返りを視覚に訴えた授業を行う。	4 教員の自己評価で、肯定的評価90%以上 3 教員の自己評価で、肯定的評価70%以上 2 教員の自己評価で、肯定的評価50%以上 1 教員の自己評価で、肯定的評価50%未満	4 生徒の自己評価で、満足度90%以上 3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 生徒の自己評価で、満足度70%未満
豊かな心の育成	全ての生徒が生き生きと活動し、安心して楽しく生活できる環境づくりを行う。	いじめの未然防止、早期発見の取組みを全教職員で組織的におこなう。	「いつでも誰とでも相談週間」やいじめ調査、学級環境適応尺度（アセス）を実施し、生徒一人一人の実態を把握・分析して指導に活かす。	4 年間5回以上実施 3 年間4回実施 2 年間2回実施 1 実施回数年間2回未満	4 生徒の満足度の評価A（児童・生徒の80%以上） 3 生徒の満足度の評価B（児童・生徒の50%以上～80%未満） 2 生徒の満足度の評価C（児童・生徒の30%以上～50%未満） 1 生徒の満足度の評価D（児童・生徒の30%未満）
		身の回りの環境や地域社会、福祉などについて考えることを通し、主体的に判断し、課題を解決する能力や態度を育てる。	学級活動や総合的な学習時間、特別の教科道徳、生徒会活動（あいさつ運動、ボランティア活動等）を通し、公共心や社会性を育む。	4 関わる学習活動を年間3回以上実施 3 関わる学習活動を年間2回実施 2 関わる学習活動を年間1回実施 1 関わる学習活動を実施することができなかった	4 生徒の自己評価で、満足度90%以上 3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 生徒の自己評価で、満足度70%未満
健やかな体の育成	生徒の主体的な活動を充実させ、心身の健康、豊かなスポーツライフを実現できる知識及び技能を習得させる。	オリンピック・パラリンピアン等との交流学習や、体験的な学習活動など外部講師の講演や実技指導の機会を設定する。	専門家による指導や講演などを実施し、生徒が体験的に学ぶ機会を設ける。	4 関わる学習活動を年間3回以上実施 3 関わる学習活動を年間2回実施 2 関わる学習活動を年間1回実施 1 関わる学習活動を実施することができなかった	4 生徒の自己評価で、満足度90%以上 3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 生徒の自己評価で、満足度70%未満
			健康・安全に係る取組みを生徒会活動などを通して実施し、生徒の主体性を育てる。	4 教職員の自己評価で、肯定的回答90%以上 3 教職員の自己評価で、肯定的回答80%以上90%未満 2 教職員の自己評価で、肯定的回答70%以上80%未満 1 教職員の自己評価で、肯定的回答70%未満	4 生徒の自己評価で、満足度90%以上 3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満 2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満 1 生徒の自己評価で、満足度70%未満
特別支援教育の充実	専門家や外部機関と連携し、特別支援教育への理解を深め、支援を必要とする生徒の視点に立った授業や教室環境の工夫改善に取り組む。	特別支援校内委員会を中心として、情報の共有を密に行い、生徒一人一人の教育的ニーズを把握するとともに、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じた指導を実施し、個に応じた確かな学力を定着させる。	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開（ねらい・流れ・振り返りの表示）の推進、教室環境の整備を充実する。	4 教員の自己評価で、肯定的評価90%以上 3 教員の自己評価で、肯定的評価70%以上 2 教員の自己評価で、肯定的評価50%以上 1 教員の自己評価で、肯定的評価50%未満	4 保護者の評価が「極めて良好」（申し分なく達成） 3 保護者の評価が「良好」（概ね達成した） 2 保護者の評価が、「もう一歩」（やや下回った） 1 保護者の評価が、「奮起を期待」（大きく下回った）
			サポートルーム教員との連携を密にとり、支援を必要とする生徒の情報を生徒会活動で共有し、組織的に対応する。	4 教員の自己評価で、肯定的評価90%以上 3 教員の自己評価で、肯定的評価70%以上 2 教員の自己評価で、肯定的評価50%以上 1 教員の自己評価で、肯定的評価50%未満	4 教職員の達成度の評価A 3 教職員の達成度の評価B 2 教職員の達成度の評価C 1 教職員の達成度の評価D
本校の特色	保護者や地域に開かれた学校を創造し地域連携を深める。	ホームページによる日々の情報公開により、行事等の動画配信により開かれた学校を推進し、保護者や地域の方々による教育活動への参画を促して学校運営に反映させる。	学校ホームページと一斉メールを有効に活用し、日々の教育活動を適時的確に掲載・発信する。また、行事等においては適宜動画の配信を行い情報の発信を進める。	4 教員の自己評価で、肯定的評価90%以上 3 教員の自己評価で、肯定的評価70%以上 2 教員の自己評価で、肯定的評価50%以上 1 教員の自己評価で、肯定的評価50%未満	4 保護者の満足度A 3 保護者の満足度B 2 保護者の満足度C 1 保護者の満足度D
		学校支援本部や保護者代表者会等と協働し、生徒の健全育成に努める。	保護者を含めた、地域人材の有効活用を積極的に行う。	4 全学年で、地域の人材を活用 3 3分の2以上の学年で、地域の人材を活用 2 3分の1以上の学年で、地域の人材を活用 1 地域の人材の活用が未実施	4 保護者の満足度A 3 保護者の満足度B 2 保護者の満足度C 1 保護者の満足度D